

どんぐり工房だより

〒284-0005 四街道市四街道 1-6-11 田中ビル3階 TEL&FAX043-421-6645

E-mail:kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp HP:http://kibou-donguri.org

社会福祉大会でどんぐり工房の体験発表

新井人志さんが自らの人生の思いと重ねて

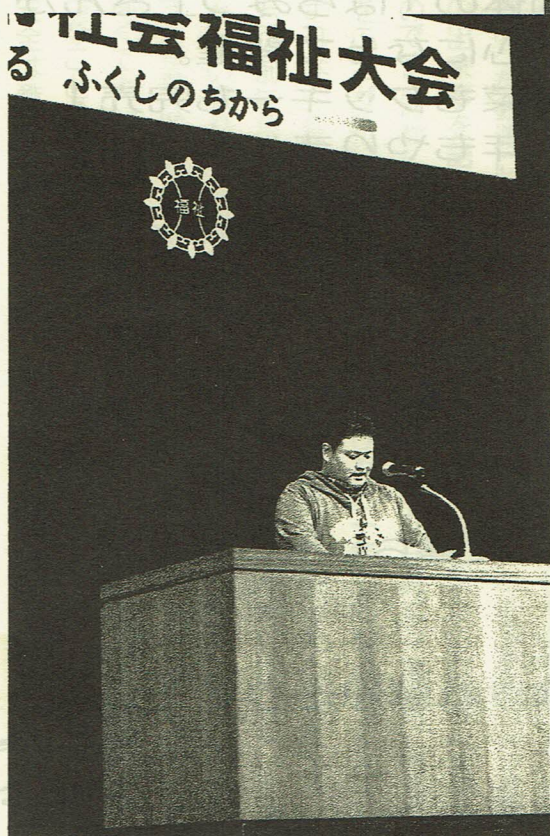
昨年11月19日に文化センターで開催された、第39回社会福祉大会で、新井人志さんがどんぐり工房の利用の体験を発表しました。

新井さんは、自らのこれまでの人生の中で、今が一番充実していると述べ、どんぐり工房での日々の活動の様子、作業のこと、楽しくおいしい昼食のこと、農園の様子、猫ちぐらの製作のこと等々を語りました。会場で聴いて下さった方からは、「感動した」、「落ち着いていた」

「今度どんぐりに見学に行きます」との感想が聞かれました。

なお、体験談の要旨は「社協だより ふくし」に掲載されます。また、ケーブルテレビで収録されましたのでいづれご覧になれる事でしょう。ご期待ください。

(堂々とした新井人志さんの発表ぶり)



どんぐり工房フェア in icoba

新年1月14日から 開催します

ご近所の「icoba」さんのお店の一部をお借りして「どんぐり工房フェア」を開催します。

どんぐり工房の、最近の手芸作品は、メンバーさん達もその出来栄に些か(いささか)自信を持ってきています。

市役所の販売でも、「すてきねえ」と言って買って下さる方が多くなりました。

12月の障害者週間の作品展にも出店して好評を博しました。

そこで、これらの作品を一堂に集めて「どんぐり工房フェア」と銘打って展示販売をさせていただきます。「icoba」さんに、ご協力を感謝しながら2週間開催しますのでどうぞご覧ください。お買い上げください。

昨秋のイベントからー お陰様で大盛況！

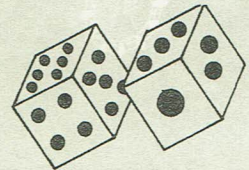
共栄フリーマーケットとハフエス



遠くからもお客様が来て下さって、お陰様で売上げは順調！利用者さんも職員も大張り切りで売り子をやったが、最後はつかれた～！ご近所の皆さんお世話になりました。



こちらは、今年初めてのイベント「ハフエス」「どんぐりの森」で友誼団体の「はちみつ」さんが中心になって開催。野菜もクッキーも完売！来年もやりましょう。



新春短歌

小林 修

今年も心温まる作品を掲載します

障害のある身確かに不便だが

工夫重ねて暮らし良くする

人からの 恩その人に返すこと

叶わなければ恩送りする

高齢者 施設といえど法の下

条件もあり制約もあり



独身で 五一歳 自己責任

(おーくま)

アイドルの ファンになっても 時は来る

(おーくま)

地蔵の袖の画面に

雪降りつむ (一)

努力して 何かが変わる 予感なし

(おーくま)

墓場だろ そつは思うが 千羅漢 (一)

選挙では 負け続けている 少数派

(おーくま)

生きたまま 運ばれてきた 魚たち

(おーくま)

読書術 どれを読んでも 「本は買え」

(おーくま)

ちがうちがう 「そつじゃ」 「そつじゃなあい」

(おーくま)

地元の人 九〇回

(地元の人:A アナウンス:B)

B「善意と悪意の二つの言葉を並べてみましょう、そつすると善意は悪意の一割くらいしかないのが分かるでしょう、あらゆる犯罪に被害を受けるか、それともあらゆる犯罪に加担するか、どちらも可能なのです、自らの行動にいちいち正義の旗を振りまわすことになると思いますけれど、ですが犯罪に手を染めるときそれは感情の働きでしょう、保身するための偶発的な行動、そのためでしょうか、私達は時折正義を語りあう時があります、そして自己の正当性を話しあうのです、まことに勝手な話です、なんら利益の発生しない遠い場所にいる人から見ればなんとも滑稽な人々の姿を見ることになり、けれども私達のいる場所は混みあった銭湯にいるようなもので一つひとつの出来事を語り合う余裕などありません、何かしらの事件があったところで目をふさがれ口を閉ざされ耳に届くことさえまれなことなのです、なんらかの報告が私たちの前に示されたとしても顕微鏡でも覗かない限り分からないことなのです、それほど社会は疎かになっていく、一切関わりあわなくてよいこの事、私達の平安はそのようなことの上で成り立っているのです、安心、安全は酷く曖昧な場所

のことです、さて、私は私自身を意識できるか、無意識に行動をとる、そのような場合があると聞きます、身を守るための自己防衛でしょうか、では意識の届かない場所なのか、私は『もの』を考えた、それはナメクシのように摂食を繰り返すことで存在した、ですが『もの』である、意識の発生は次期の話です、では私は意識である、そつは言えないでしょうか、そつ言えは笑われてしまうかも知れない、だがあらゆる犯罪に私が関与することは可能なのです、否定する意識にかかわらず、私は自分自身を疑った、本来何者だったのか、具象化することは困難です、それでもどこまでも知ろうとした、そして皮肉にも意識から遠ざかった存在を発見した、そして意識そのものも疑わしいものになった、それでは衝動から免れることは出来ないか、意識は衝動を防ぐことは出来ないか、そこまでの力にならないものか、理性など信用できるものではないけれど一瞬でも踏みとどまることが出来るなら結果は違ったものになる、いえ、私は全てを知らなければならぬと考えたのです、自然の中では私というものは蠅と同様なのかもしれない、だが蠅のように叩き潰されることを拒否するのです、人間であり得るか、世の中は騒々しい、人間一人などどうでも良いのかも知れませんが」

(一)